



兵庫県専門家による避難訓練視察（フィリピン）
Expert from Hyogo observing drill (Philippines)

Newsletter

ソフトバンク株式会社のアプリ「つながる基金」で、下記SEEDSのロゴをかざすと簡単にご寄付いただけます。

● Table of Contents Vol.71 (Jul. & Aug. 2019)

- ・ ミャンマー : ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業
- ・ バングラデシュ : 災害対応ウェアハウスの効率性強化支援事業
- ・ フィリピン : セブ州における学校の防災管理推進支援事業
- ・ 日本 : 中山間地域の地域資源を活かした防災担い手育成パイロット事業
- ・ 講師派遣
- ・ お知らせ
- ・ Myanmar : Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township
- ・ Bangladesh : Enhancement of the Effectiveness of DRR Emergency Warehouses
- ・ Philippines : Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province
- ・ Japan : Pilot Project for Human Development Utilizing Local Resources in Tamba City
- ・ Delivery Lecture
- ・ Announcement



特定非営利活動法人SEEDS Asia

〒658-0072

神戸市東灘区岡本3-11-30-302

3-11-30-302 Okamoto,
Higashi Nada ku, Kobe, Japan

Tel : 078-766-9412

Fax : 078-766-9413

Email : rep@seedsasia.org

Web : www.seedsasia.org

Facebook : <https://www.facebook.com/SEEDSASIA/>



ミャンマー

ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業

【外務省 日本NGO連携無償資金協力事業】

教育と防災の拠点となる学校建設から地域の防災力向上まで、ハードとソフトを合わせた包括的な防災を推進しています。

●京都市からの専門家を招いて包括的學校防災セミナーを開催

8月8日、社会福祉救済復興省復興救済局の国家防災管理研修センター（Disaster Management Training Centre: DMTC）にて包括的學校防災セミナーを実施しました。SEEDS Asiaからは大津山事務局長が参加したほか、京都市立高倉小学校の岸田蘭子校長先生に専門家としてご登壇いただき、「地域と取り組む学校づくり」についてご講義いただきました。さらに、ヒンタダ地区や学校に関連する研究ポスター発表も実施され、出席者は興味津々で質疑応答が止まらない程活発な協議が展開され



包括的學校防災セミナーでの集合写真

ました。学校の校舎建設、防災教育、安全管理に関し、実証に基づいた知見が共有されるセミナーとなり、ご協力いただきました岸田校長先生ほか、皆様に心より感謝申し上げます。

●京都市からの専門家によるナバーゴン村訪問

岸田蘭子校長先生は、ヒンタダ地区で8月8日に開催した包括的學校防災セミナーのほか、毎年の雨季による浸水が始まっているナバーゴン村に訪問しました。今回は全国の中でも先駆けて地域による学校運営協議会を持ち、日本で初めて市民によりその構想と建設が行われた“番組小学校”として歴史的な背景を持つ高倉小学校の岸田蘭子校長先生に、セミナーでのご講演と雨季のナバーゴン村小学校兼シェルターへの視察訪問、ならびに交流の機会を持って頂きました。先生の渡緬の様子を6分程度にまとめていますので村の様子などを含め是非ご覧いただけると幸いです！

<https://www.facebook.com/SEEDSASIA/videos/441571549773688/>

●ナバーゴン村の防災ジオラマ模型が完成！



ナバーゴン村のジオラマ模型

昨年実施したまちあるきや全戸調査を踏まえ、村のジオラマ模型を製作し、度重なる住民との協議を経てこの度完成いたしました。水の流れを理解するための高低差の理解と村の避難計画づくり等、防災活動・教育の充実を図って参ります。

●ナバーゴン村並びに周辺に浸水高を記録し理解するための水位棒を設置

ミャンマーは7月から本格的な雨季になり、ミャンマーの大地を背骨のように走るエヤワディ河の北部（山側）で洪水が始まりました。河の南部（デルタ地帯）に位置するナバーゴン村は、水が南下する前に、SEEDS Asia職員と学校と地域で災害対応計画を再度見直すとともに、水位を測る水位測定棒をミャンマーの気象水門局ヒンタダ地区職員からアドバイスを頂きながら設置し観測を始めました。学校や村の防災委員会、各世帯で避難や応急対応の準備を始めています。



水位棒設置の様子



バングラデシュ

災害対応ウェアハウスの効率性強化支援事業

【世界銀行都市強靱化プロジェクト】

ダッカ市職員向け災害対応研修実施を通じ、災害対応ウェアハウスの有効的な運用を促進します。

●北・南ダッカ市での職員向け防災研修

SEEDS Asiaが6月よりコンサルタントとして関わっている世界銀行都市強靱化事業では、事業実施団体である北ダッカ市が、北・南ダッカ市の8つのゾーンに災害対応ウェアハウスを設置し、将来的にゾーンレベルの災害対応チームの組成を目指しています。SEEDS Asiaは、この災害対応ウェアハウスにてゾーン事務所の職員に対して防災研修を実施することで事業の支援をしています。

第1回目の研修では、都市の災害リスクと防災の基礎、災害対応ウェアハウスの役割について学ぶとともに、消防署職員を招き、配備されている各資機材についてデモンストレーションによる説明を行いました。災害対応ウェアハウスは最近になってゾーン事務所に移管されたため、多くの職員にとって初めての訪問となりました。また、ダッカ市では火災が大きな問題となっておりゾーン事務所の職員もビルの火災安全対策実施状況の調査を行う必要があるため、消火栓や煙探知機、非常口など、ビルに設置されるべき設備について学びました。さらに、参加者は、今後ゾーン事務所が災害対応ウェアハウスの管理をしていくなかで平常時はどのように活用できるかを、それぞれの部署の通常業務と関連付けながら話し合いました。

参加者からは、「災害対応ウェアハウスの存在は知っていたが、目的や設備については知らなかった。今後、災害時に速やかに動けるよう、部署のミーティングやトレーニングなどで定期的に利用したい」、「災害対応ウェアハウスの運用には、現場職員や区長、住民グループも関わるべきだ」、「生徒たちが学べるようなリソースセンターにしたい」といった声があがりました。そのためには、「冷房やインターネット、マルチメディアなどの設備が不可欠だ」、「災害対応ウェアハウス管理のため常駐の職員が必要だ」などといった指摘がありました。また、中には防災について初めて学ぶ職員もいましたが、「はじめはなぜ自分がこの研修に出席しなければならないか分からなかったが、自分の業務にも関連することが分かり大変有意義な時間だった」と感想を述べてくれました。



ゾーン事務所の職員向け研修の様子

バングラデシュの国果、ジャックフルーツ



バングラデシュの国果ジャックフルーツ

ジャックフルーツという果物をご存知ですか？日本ではあまり馴染みがないですが、バングラデシュやインド、アフリカでは非常によく食べられている果物です。大きいものだと長さ70cm、幅40cm、重さ30kg以上にもなり、世界で最も大きな果物と言われています。黄緑色のぼこぼことした突起状の厚い皮に覆われていて、その大きさや見た目からはとても果物には見えません。生り方も特徴的で、木の枝ではなく幹になります。バングラデシュではジャックフルーツは国果とされており、7月に旬を迎えます。ダッカでも、街のあちこちで山積みになって売られているジャックフルーツを見かけました。強い匂いと甘い果肉が特徴で好き嫌いが分かれる果物ですが、バングラデシュでは生で果物として食べる他にも、熟す前のは野菜としてスパイスで煮たり炒めたりして食べ、ビタミンが特に豊富な種は乾かして保存食として食べられています。ジャックフルーツの木は1年に150もの実をつけるといわれ、価格も安く栄養豊富であることから、広く国民に愛されている果物です。



フィリピン

セブ州における学校の防災管理推進支援事業

【JICA草の根技術協力事業】

学校における災害リスク管理力の向上を目指した取り組みを実践しています。

●兵庫県教育委員会、EARTH員による総合避難訓練視察

7月21日から25日にかけて、兵庫県教育委員会事務局職員1名と震災・学校支援チーム（EARTH）員1名をセブに招へいし、阪神・淡路大震災後24年以上持続してきた兵庫県の学校防災に関する技術移転を行いました。7月22日と23日にはパイロット校であるマンダウエ市地区パクナアン国立高校とボゴ市科学芸術アカデミーにて、それぞれ地震や台風による浸水を想定した訓練を視察しました。訓練後の専門家によるフィードバックでは、学校と地域の連携した取り組みが大きく評価されました。避難者として地域の人々が自身の避難持ち出し袋を持参して参加した他、引き渡し訓練には生徒・児童の保護者も参加しました。また、教員と地域の関係者による振り返りでは、生徒代表者も数名参加、発言していたことに関し、「日本でも稀に見る取り組みで素晴らしい」とコメントされました。さらに、訓練中に見かけた塀の上の植木鉢について落下の危険性を指摘されると、教員がその後すぐに撤去するなど、子供たちの命を守るという責任感や災害への危機意識をもって学校防災に取り組んでいる姿が見られました。



マンダウエ市での総合避難訓練の様子

●兵庫県教育委員会、EARTH員と地方事務所長、地区事務所長との会議



専門家を囲んでの集合写真

7月24日は、セブ市内にて兵庫県教育委員会の専門家より、兵庫県教育委員会の学校防災推進支援に関する取り組みと、EARTHの平時の学校現場や被災地支援の活動を、教育省第7地方事務所所長やパイロット地区の地区事務所長、地方事務所防災管理コーディネーター、地区防災管理コーディネーターなど30名弱に紹介していただきました。参加者である地区事務所長の1人は、「今日の会議に招待され嬉しく思っている。9月に予定されている本邦研修で日本に派遣される者には、セブが災害に強い州になるよう学校を支援し

職責を果たしてほしい」と述べました。EARTH員からは、「今回できたネットワークが続いてほしい。小さなステップから防災文化が作られる」とのメッセージが参加者に伝えられました。

●トレド市での総合避難訓練

8月29日には、トレド市タラベラ小学校にて降下火山灰に対する訓練を行いました。タラベラ小学校での訓練後、幼稚園児と小学校児童に、訓練の経験と防災知識についてインタビューを行ったところ、園児は「先生に言われて友達と一緒に上の階に行った。顔を守るためにマスクをした」と答え、小学校2年の児童は、「火山灰は火山噴火でできる。火山灰は体に悪いから、マスクをしてジャケットを着たほうがいい」と答え、マスク着用の目的を教員がしっかりと指導していることが分かりました。子どもたちからは、「次に避難訓練があったら、何をすればいいか分かっている」という頼もしいコメントもありました。2名の教員にもインタビューを行い、「訓練開始時の優先事項は何でしたか？」という質問に対し、「迫り来る危機について、マスクをするなどの対応手順を児童に伝えた」と答えました。学校は、1週間前にシンポジウムを開催し、学校全体で準備をしていたようです。「自分の役割・責任を果たせましたか？」と訊ねると、「プランニングとモニタリングを担当し、連絡と安全点検という役割を果たすことができた」と答えました。「今後の避難訓練で改善したいことは何ですか？」との質問には、「ハザードとなる障害物を無くす」、「火災や地震など他の訓練を行う」と回答し、継続的な活動が期待されます。

●セブ州知事への表敬訪問

8月8日に、新しく就任したセブ州知事であるグウェンドリン・ガルシア氏に表敬訪問を行いました。団体概要、今までフィリピンで行った事業、現行の防災管理事業と、それに関する了解覚書や9月に予定している本邦研修について説明しました。



日本

中山間地域の地域資源を活かした防災担い手育成パイロット事業

【ひょうごボランティア基金など】

丹波市の豊かな自然の恵みと災害からの復興過程で得た教訓を次世代に伝え、災害を生き抜く力を育みます。

●ミャンマー事業報告、防災キャンプの下見と事前準備

8月24日から25日にかけて、11月に1泊2日で実施する「ESD防災キャンプ」の下見と事前準備、そしてミャンマーで使用されている丹波市の学校家具について事業報告を実施しました。

「ESD防災キャンプ」は、豊かな自然と共生した生活を送る丹波市の地域資源をふんだんに取り入れ、未来を担う子ども達が災害発生時の生活に備えること、そして自然が起こす災害について理解し、将来のまちづくりについて考えるきっかけづくりを目指して実施する予定で、その安全管理と運営面での準備をするために、今回の訪問を決定しました。

キャンプ実施の諸経費に対する助成は、ひょうごボランティア基金「地域づくり活動NPO事業助成」から頂き、今後の丹波市を舞台とした「人づくり」につながるような活動としていきます。

このキャンプは、11月2日から3日にかけて実施予定です。非常食づくりや仮設トイレの設営など、災害発生時にたくましく生きる力を身に付けるとともに、秋の丹波の豊かな野菜の収穫体験もできます。防災について考えることも重要ですが、自然の近くで生活するために災害リスクを正しく理解し、同時に美しい景色や美味しい食材などの素晴らしい恩恵を受けることができるということ、そしてそういった暮らしの在り方について子ども達が体験し、これからの生き方に取り入れることを重要視しています。黒豆や栗、小豆など、「丹波三宝」と呼ばれる名産品が揃う季節でもあります。ぜひご参加下さい。



ミャンマーに寄贈した黒板、机・椅子についての報告



野菜収穫体験

イベントページ：<https://iko-yo.net/events/193745>

イベントチラシ：<https://www.seedsasia.org/JP/wp-content/uploads/2019/09/ESD-DRR-Camp-Brochure.pdf>

丹波三宝（たんばさんぼう）

丹波市が誇る名産品の丹波黒大豆、丹波栗、大納言小豆は3つまとめて「丹波三宝」と呼ばれています。それぞれ「普通の」黒豆や栗、小豆よりも大きく、風味も豊かだと言われています。中でも小豆は丹波市春日町の「黒さや」という品種が有名で、朝廷に献上されてきた最高級品だそうです。黒豆は丹波市のお隣の丹波篠山市のものが有名ですが、特に「有機の里いちじま」と呼ばれている市島町では、有機栽培の黒豆も採れるので、見かけたら是非お試しください。「ESD防災キャンプ」で受入をして下さる「こんちゃん農園」では化学肥料や農薬は使っていませんが、丹波地域全体で黒豆が不作だった去年も、たくさんの黒豆が収穫できました！何と、日本蜂を畑の横で飼っていて、蜂たちが受粉を手伝ってくれた、というのが勝因だったようです。今年ももうすぐ「丹波三宝」の季節がやってきます！



今年は大納言が豊作です！

ふいふいで大粒の黒豆が入っています！

講師派遣

SEEDS Asiaでは、全国の学校や地方自治体、私企業などの民間組織・団体の講演会やイベント等、幅広い方々を対象に、講師を派遣しています。2019年7月～8月には以下の講師派遣を実施しました。

●神戸学院大学での講義

7月8日、神戸学院大学現代社会学部社会貢献論II/社会防災特別講義IV（サテライトで工学院大学建築学科と接続）にご招待いただき、事務局長の天津山光子が「アジアで防災のリアルー被災の背景に向き合っていくということー」をタイトルとして登壇しました。社会防災特別講義の到達目標に対応する形で、まず開発途上国の現状と課題を理解することと、世界における日本の国際的立場を理解し、国際協力の意義を説明できることを目的として、なぜアジアで防災・減災の協力が必要なのかということについて紹介しました。事例として2008年にミャンマーで発生したサイクロン・ナルギスを取り上げ、なぜ約14万人もの死亡・行方不明者を生み出したのか、当時の状況を振り返りながら災害を生み出す社会背景について理解を促す内容としました。また、将来のキャリアプランの1つとしてNGO職員という生き方も考慮してもらえよう、現地での暮らしの話、NGOで働くことの魅力、事業実施の中で気を付けていること等についても最後に紹介しました。参加した学生からは、「今まで災害に対して“被害”という結果しか見ていなかったのが、災害と社会の脆弱性との因果関係について考えることは斬新なことだと思いました」といった感想や、「やりたいことを妥協せず求めて、走り続けている感じが伝わってきて、同じ女性としてすごく輝いて見えました。その場だけの支援ではなく、その後につなげる防災重視の支援が他の先生の講義とは異なる点ですごく魅力を感じました」というコメントがみられました。SEEDS Asiaの活動や、活動している国の事情、NPOやNGOでの活動について、理解を深める一助になれば嬉しいです。

お知らせ

●事務局長交代のお知らせ

この度、2019年7月付でSEEDS Asiaの事務局長が交代致しました。

旧事務局長の退任、新事務局長の就任にあたりまして、ご挨拶の文書をお届け致します。

令和元年六月
特定非営利活動法人SEEDS Asia
天津山 光子

謹啓 向暑の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は活動へのご協力とあたたかいご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

令和元年七月一日を以て、中川裕子の後任として事務局長に就任することとなりました。若輩未熟で身に余る重責ながら、災害に負けないまちづくり・人づくりに向け、日本を含めたアジアにおける防災事業の実施に誠心誠意尽力して参ります。引き続き皆様のお力ご支援とご協力、そしてご指導のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

敬具

令和元年六月
特定非営利活動法人SEEDS Asia
中川 裕子

謹啓 向暑の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

このたびは六月末日にて事務局長を退任する運びとなりました。在任中は格別のご支援・ご協力いただいたこと、厚くお礼申し上げます。なお事務局長は退任しますが、私は今後も引き続き弊団体に在職致します。そして、新たな事務局長には天津山光子が就任し、更なる活動に邁進してまいります。これまで同様の皆様のご愛顧とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

新体制のもと、引き続き皆様にはご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



Myanmar

Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township
【 Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA) 】

●Seminar of Comprehensive School Safety with Expert from Kyoto City

On 8th August, a seminar about Comprehensive School Safety was held at the Disaster Management Training Centre under the Ministry of Social Welfare, Relief and Resettlement - Department of Disaster Management. Attendees included Ms. Mitsuko Otsuyama, the Executive Director of SEEDS Asia, and Ms. Ranko Kishida, the Principal of Kyoto Municipal Takakura Elementary School. The latter gave a lecture about school management in partnership with the community. Poster presentations were also made on research related to schools and Hinthada District, which led to active discussions between the presenters and the audience. This seminar indeed became a venue for shared expertise about school construction, disaster education and safety management with evidence-based approaches. We thank all who gave cooperation to make this come true.



Group photo at the Seminar

●Nabekone Village Welcomed Expert from Kyoto City

Aside from the seminar about Comprehensive School Safety held on 8th August, a visit with Ms. Ranko Kishida was paid to Nabekone Village which is currently getting flooded due to regular rainy season. The seminar and the village welcomed Ms. Kishida from Takakura Elementary School which was the very first in Japan to be a Bangumi elementary school conceptualized and constructed by citizens, and was one of the pioneers to establish a school management board. The video briefs about the visit by her to Myanmar including how the school-cum-shelter looks like now. Please watch!

<https://www.facebook.com/SEEDSASIA/videos/441571549773688/>

●Scale Model Has Been Completed!



Nabekone Village's scale model

Based on the town watching activity and household surveys of last year, Nabekone Village's scale model has been completed! Ground elevation is depicted to showcase the flow of river/flood water, and this model will enhance the Village's DRR activities and DRR education, including planning for evacuation.

●Water Level Measurement Gauges Have Been Installed

Nabekone Village in the delta region as well as on the southern part of the Ayeyarwady river is getting prepared for the flood season. Ayeyarwady river runs through Myanmar just like the country's backbone, and when its northern part in the mountains floods, Nabekone Village started to review the disaster response plan of the school and of the community with SEEDS Asia and installed water level measurement gauges with the help of officials from the Hinthada District Office of Department of Meteorology and Hydrology. The school, Village Disaster Management Committee, and each household are getting prepared for evacuation and emergency response.



Installing water level measurement gauge



Bangladesh

Enhancement of the Effectiveness of DRR Emergency Warehouses 【World Bank Urban Resilience Project】

● DRR Training for Officials in Zone Offices in Dhaka North and South City Corporation

In the World Bank Urban Resilience Project that SEEDS Asia joined as a consultant since June, Dhaka North City Corporation (DNCC), one of the implementation agencies, has established the zone emergency warehouses in 8 zones in the city and aims to form a disaster management team at each zone. SEEDS Asia supports DNCC by providing trainings to officials in the zone offices at the zone emergency warehouses.

In the first training, the participants learned disaster risks in the city, DRR basics, and roles of the emergency warehouse and its equipment. Fire service was invited to demonstrate and explain the use of this equipment. The warehouse was handed over to the respective zone offices recently and it was the first time for many officials to visit the facility. Also in the training, they learned fire safety and firefighting measures that a building has to have as fire has become a big issue in the city and they need to conduct inspection visits to commercial buildings. They also discussed how they could operationalize the warehouse by utilizing it in normal time in relation to their department's responsibility and daily activities.



Training for city's zone officials



Fire service explaining equipment of the emergency warehouse

The participants gave feedbacks such as "I didn't know the purpose of and facilities in the warehouse. Now that I learned, I would use the place for our regular meetings and trainings so that the warehouse can be used smoothly in emergency times", "field workers, councilors, and communities should be involved in the warehouse management", "I want to make this place a resource center for school students", and for that they pointed out that "air conditioning, internet connection, multi-media, etc. are necessary" and "full time staff should be appointed". Some of the participants were new to DRR and said "I did not know why I was sent to the training today but I realized it's related to my work and the training was very meaningful to me".

Bangladesh's national fruit-Jackfruit

Do you know jackfruit? Many Japanese are not familiar to the fruit but it is widely eaten in Bangladesh, India, Africa, and other parts of the world. It's said to be the biggest fruit and it can be as big as 70cm long with 30kg weight. Covered with green colored thick protrusive skin, it does not look like a fruit. Jackfruits is the national fruit of Bangladesh and its best season is July. We often see oversized jackfruit being sold in many places in the city. Due to its signature smell and sweet taste, some may like it while others don't. In Bangladesh, people not only eat it raw as a fruit but unripe ones are also cooked as a vegetable. Even people store the mature seeds, particularly rich in vitamins, after sun drying. One tree bears around 150 fruits each year and because of its nutritional value and reasonable price, the fruit is loved by people in Bangladesh.



Bangladesh's national fruit, Jackfruit



Philippines

Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province

[JICA Grassroots Technical Cooperation Project]

● School Visit of Hyogo BoE and EARTH for Observation of Drills

From 21st to 25th July, 2019, experts from Secretariat Office of Hyogo Prefectural Board of Education (BoE), and from Emergency And Rescue Team by school staff in Hyogo (EARTH), visited Cebu Province to transfer expertise in school-based Disaster Risk Reduction and Management (DRRM) that has sustained over twenty-four years since the Great Hanshin-Awaji Earthquake in 1995. On the 22nd and 23rd, the delegates visited Paknaan National High School in Mandaue City Division, and City of Bogu Science and Arts Academy, both the project's Pilot Schools, to observe drills of earthquake and typhoon respectively. Good relationship between the school and community in the drill was highly regarded by the experts at the feedback meeting. People in the communities joined the drill as evacuees and brought their own evacuation bags, and also families of the students participated to pick their children up at student-family reunification. One expert mentioned, "I am impressed that several students were involved in the feedback meeting and expressed their opinions. I have hardly seen such initiatives in Japan". Moreover, teachers removed the flower pots on the wall right after the expert pointed those pots might fall during earthquakes.



Drill at Mandaue City

● Visit of Hyogo BoE and EARTH Teacher, and Meeting with Regional Director and Schools Division Superintendents



Group photo with experts from Hyogo

On 24th July, a meeting was held among Hyogo BoE, EARTH, Department of Education (DepEd) Region VII Regional Director, Regional DRRM Coordinator, Schools Division Superintendents (SDS), and Division DRRM Coordinators, totaling twenty-four participants. Hyogo BoE and EARTH gave lectures about Hyogo Prefecture's supports to School DRRM, EARTH's School DRRM initiatives as well as emergency supports to disaster-affected areas. An SDS told that he was happy being invited, and that he hopes the person to be sent for the upcoming Japan Study Visit shall help develop school resiliency and accomplish the mandate". EARTH gave a message in the end that he hopes that the relationship established during his visit will last, and that the small steps and efforts will lead to culture of safety.

● Drills in Toledo City Division

On 29th August, Talavera Elementary School, another Pilot School, also conducted a drill for ash fall. After that drill, SEEDS Asia interviewed one kinder student, two students from grade 2, and another from grade 3 about their experiences of the drill and knowledge about DRRM. One kinder pupil went upstairs with other children as instructed by her teacher. She covered her face with a mask for protection. The grade 2 students said that "Ash fall is a result of a volcanic eruption. One should wear a wet face mask and jacket since ashes can cause harm to our health". They told that if another drill is to be held at school, they would know how to respond properly. SEEDS Asia also conducted an interview to teachers. To the question "What was your priority action during the start of the drill?", both teachers replied that they informed their students of the imminent hazard and the response protocol like wearing face masks. They both shared that the school conducted a symposium a week before the drill to prepare everyone for the activity. To the question "Were you able to perform your assigned responsibility?", they replied that they were part of the planning and monitoring committee, and that during the drill they served as communications and safety inspectors. To the question "What improvements can you suggest for the next drill?", they replied "Remove hazardous things or obstacles in school", and "Conduct of different drills like fire and earthquake"

● Courtesy Call to Newly Installed Governor of Cebu Province

On 8th August, SEEDS Asia paid a courtesy call to newly installed Governor of Cebu, Ms. Gwendolyn Garcia. SEEDS Asia explained an overview of the organization, accomplished projects in the Philippines and the current DRRM project, as well as Memorandum of Understanding signed for the project, and Japan Study Visit which was to be held in September.



Japan

Pilot Project for Human Development Utilizing Local Resources in Tamba City 【Hyogo Voluntary Fund and others】

●Project Report of Myanmar and Preparation for ESD-DRR Camp

From 24th to 25th August, a pre-visit preparation was conducted for the “ESD-DRR Camp” event planned for November. A reporting session also followed about the school furniture donated by Tamba City’s schools for the use in Myanmar.

The “ESD-DRR Camp” is an event where participating children are expected to be ready for future disasters particularly for life in a shelter, understand nature-induced disasters and think about community development for their society. The preparation was for the organizers (SEEDS Asia and local residents) to be capable in handling the camp in terms of safety management and operation.

SEEDS Asia gratefully acknowledges Hyogo Voluntary Fund for the support and opportunity given to the conduct of the camp, as part of the expenses is covered by its “Support for Nonprofit Organizations in Community Development Activities”. This event will be a starting point for future capacity building initiatives to be taken in Tamba City.



Harvesting vegetable



Discussion on chairs, desks and blackboard donated to Myanmar from Tamba

The Camp is planned to be organized on 2nd and 3rd November. In addition to learning to be able to handle emergency cooking and establishing temporary toilet equipment, the participants will be provided a chance to harvest great autumn food of Tamba. Emphasis is put on not only thinking about disaster risk reduction but also understanding both risks and benefits, such as beautiful scenery and great food, from living close to nature. It is expected that the participating children will be able to experience a lifestyle based on such thinking and understanding and incorporate such an idea to their way of living. Autumn is when Tamba black soybeans, chestnuts and red beans (so-called the “Tamba’s Three Treasures”) are produced. We look forward to welcoming participants.

Come have some “Tamba Sampo”!

Tamba City boasts some excellent food that is unique in the locality: Tamba black beans, Tamba chestnuts, and dainagon red beans, which are called the “Tamba Sampo (Tamba’s three treasures). Each species of crops is said to be larger and tastier compared to “ordinary” soy beans, chestnuts and red beans. The “Kurosaya” (black pod) dainagon red beans (dainagon is a high rank position back in the seventh century) harvested in Kasuga-cho, Tamba City, is famous for having been presented to the Imperial Court. The black beans are also harvested in neighboring cities of Tamba, but Ichijima-cho, Tamba City, is a pioneering community of organic agriculture, and black soybeans are no exception. You are very lucky if you find black beans harvested in Ichijima-cho! One of the hosts of the ESD-DRR Camp is also working on agriculture with no use of chemical fertilizers or pesticide. While the black bean crop was poor last year elsewhere, they had quite good harvest, thanks to the Japanese honey bees who helped pollinate! Hope readers can come try the treasures of Tamba City.



We have good sweet potatoes this year!



Large black beans are in the pods!

Delivery Lecture

SEEDS Asia delivers lectures and organizes events for schools, local governments, private sectors and organizations in your area to meet various requests. Please read below to learn more about delivered lectures for July and August.

●Lecture at Kobe Gakuin University

On 8th July, Ms. Mitsuko Otsuyama, Executive Director of SEEDS Asia was invited to special lecture of social DRR/ methodology for social action II, the Faculty of Contemporary Social Studies, Kobe Gakuin University to deliver a lecture themed “Reality of DRR in Asia – Facing background of disaster experience”. Based on the achievement objective of the special lecture of social DRR, why our action towards DRR in Asia is needed was explained for students’ better understanding of the circumstances and challenges in developing countries; Japan’s responsibility in the world; and significance of international cooperation. Cyclone Nargis which affected Myanmar in 2008 was introduced as a case to develop deeper understanding of social background causing a tremendous disaster with learning the background of the country – why it caused 140 thousands of deaths and missing. How the life in Myanmar was like; what is good about working for NGO; and what she keeps in mind in the project were referred to encourage students to consider that working for NGO is one of the choices of their future career. “Thinking about causality between disaster and social vulnerability was new to me since I always focused on the damages as a result of disasters.”, “Ms. Otsuyama was brilliant as a woman who never give up and pursue what she wants. The greatest thing is sustainable assistance was more focused on her lecture not just temporary support.”, students commented. It was a pleasure to share about SEEDS Asia, the countries which we are working with, and NGO/ NPO’s initiatives with students.

Announcement

●Replacement of Executive Director of SEEDS Asia

Effective 1st July 2019, the new Executive Director has been assigned. We are looking forward to working with you under the new administration!

